



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

滋賀県

景況調査結果報告書

2019年度第1四半期
(2019年4～6月)

目次

I.調査結果.....	2
II.今期の状況.....	3
III.規模別・業種別.....	8
IV.回答企業のコメント.....	22

滋賀県商工観光労働部商工政策課

I. 調査結果



【調査概要】

滋賀県では、四半期毎に県内の景気動向の把握を目的として景況調査を実施しております。今期(2019年4～6月期)の調査結果の概要は次のとおりです。

また、滋賀県景況調査報告書については、滋賀県公式ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/syougyou/300168.html>

今期の県内企業の景況は、業況、生産、売上、経常利益の各DI全てにおいてマイナス幅が拡大した。雇用の水準DIマイナス幅が縮小し、不足感が弱まった。

来期(2019年7～9月期)の見通しについては、業況、生産、売上、経常利益の各DI全てにおいてマイナス幅が拡大する見通し。雇用の水準DIについてはマイナス幅が拡大し、不足感が強まる見通し。

【調査方法】

①調査期間……2019年6月

②調査企業数……県内の事業所(750社)

③調査方法……郵送アンケート

④回答企業数……442社(回答率58.9%)

(社)

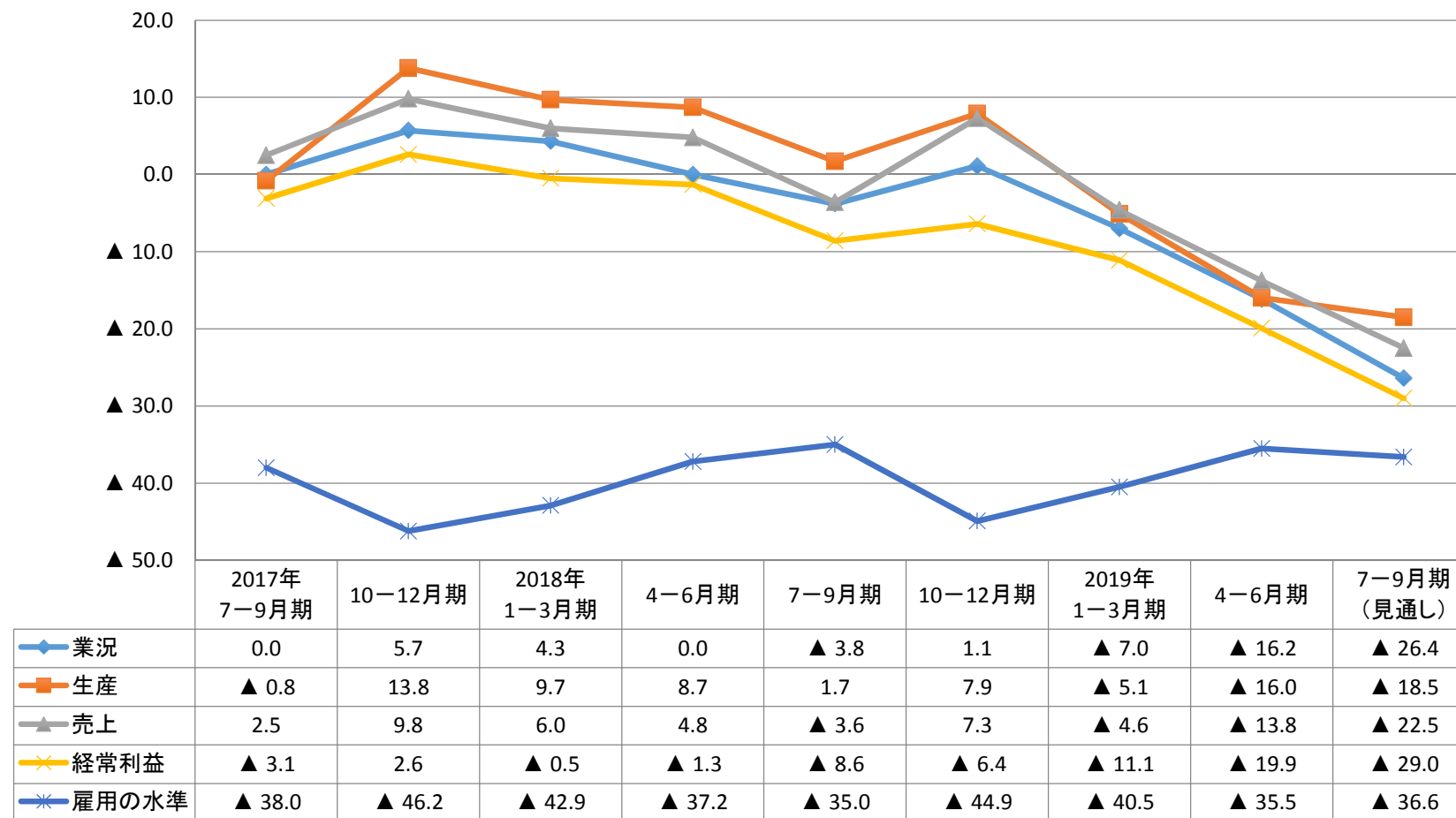
	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
大企業	29	4	0	2	11	46
中小企業	188	47	27	37	97	396
合計	217	51	27	39	108	442
産業別比率	49.1%	11.5%	6.1%	8.8%	24.4%	

※本調査でのDI(ディフュージョン・インデックス):「増加(好転・上昇・過剰等)」と回答した事業所数の構成比から、「減少(悪化・低下・不足等)」と回答した事業所数の構成比を差し引いた値。

今期(実績)の業況、生産、売上、経常利益、在庫数量の各DIは前年同期と比較。資金繰りDIは3か月前と比較。採算の水準、引合、雇用の水準の各DIは今期水準の軸を用いて算出。

来期の見通しについては、業況、生産、売上、経常利益、在庫数量の各DIは3か月後の前年同期と比較。資金繰りDIは3か月後水準の軸を用いて算出。採算の水準、引合、雇用の水準DIは3か月後水準の軸を用いて算出。

Ⅱ.各種DIの動き(実績)と来期の見通し



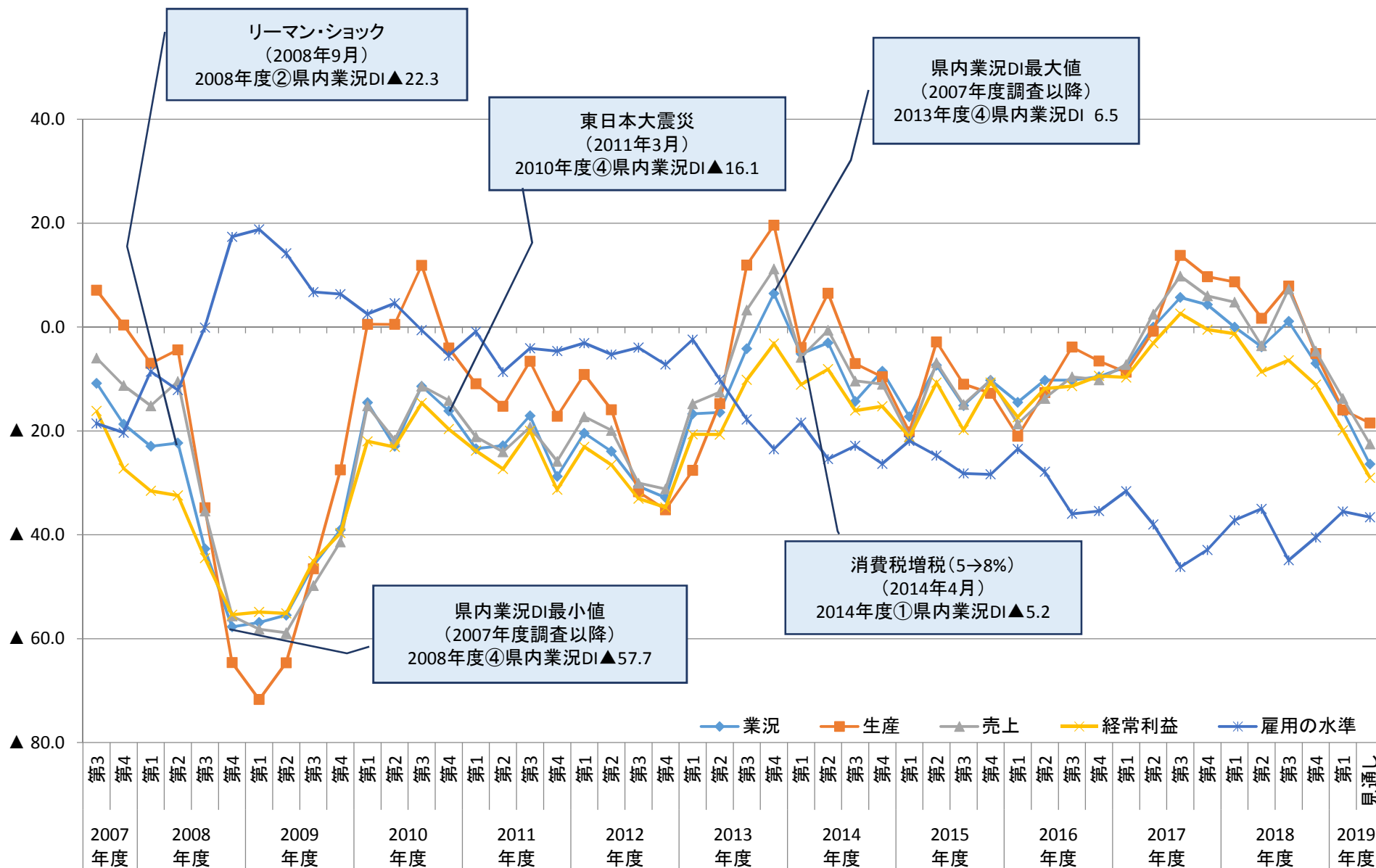
今期(2019年4~6月期)の県内企業の景況(前期(2019年1~3月期)との比較)

- ・業況、生産、売上、経常利益の各DI: マイナス幅が拡大した。
- ・雇用の水準DI: マイナス幅が縮小し、不足感が弱まった。

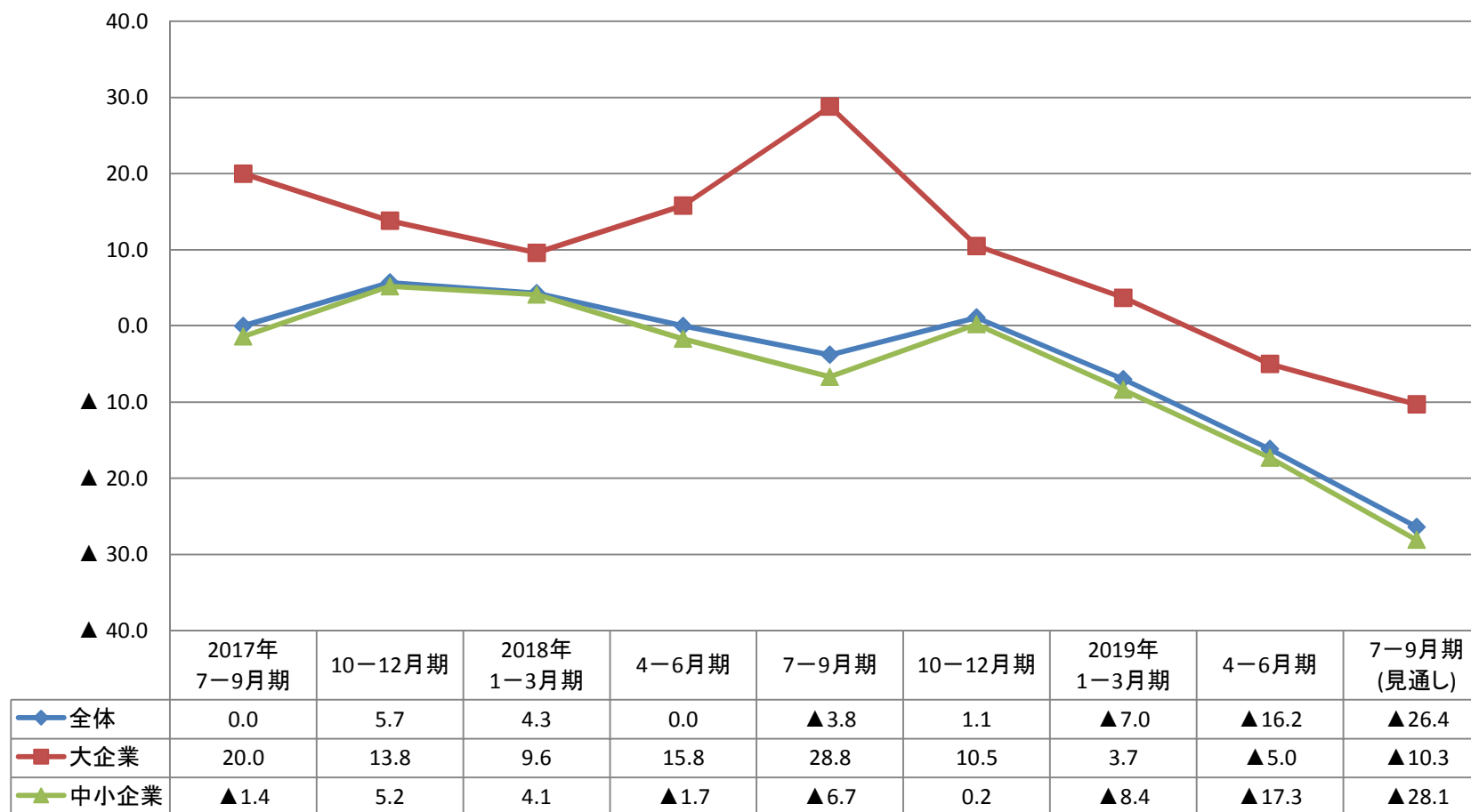
来期(2019年7~9月期)の見通し

- ・業況、生産、売上、経常利益の各DI: マイナス幅が拡大する見通し。
- ・雇用の水準DI: マイナス幅が拡大し、不足感が強まる見通し。

Ⅱ .DIの推移: 2007年度第3四半期～2019年度第1四半期

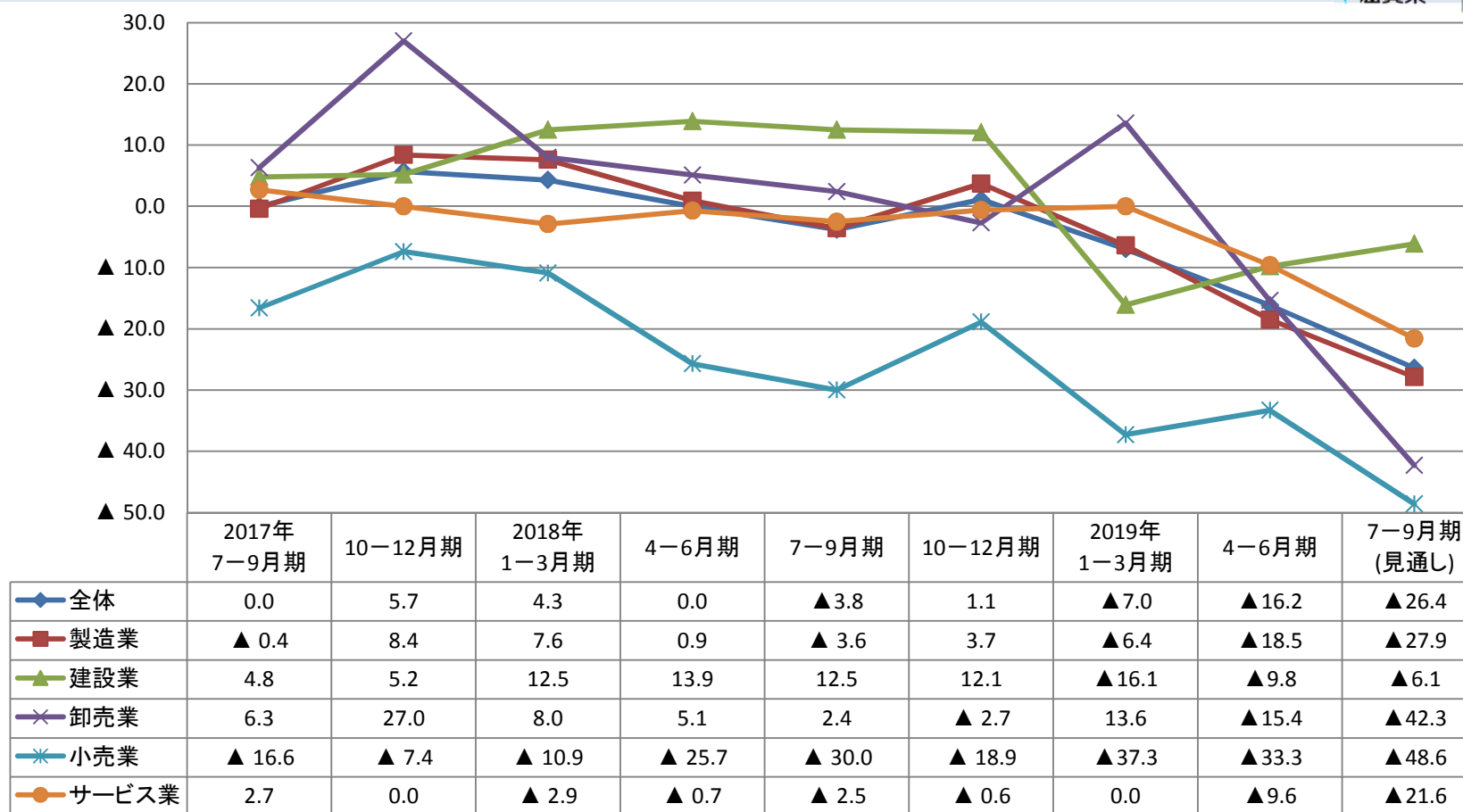


Ⅱ. 企業規模別業況の動き(実績)と来期の見通し



- ・全体の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・大企業の業況DIは前期に比べプラスからマイナスに転じた。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
大企業の業況は9期ぶり(2016年度第4四半期(2017年1-3月期))にマイナスに転じた。
- ・中小企業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅱ.業種別業況の動き(実績)と来期の見通し

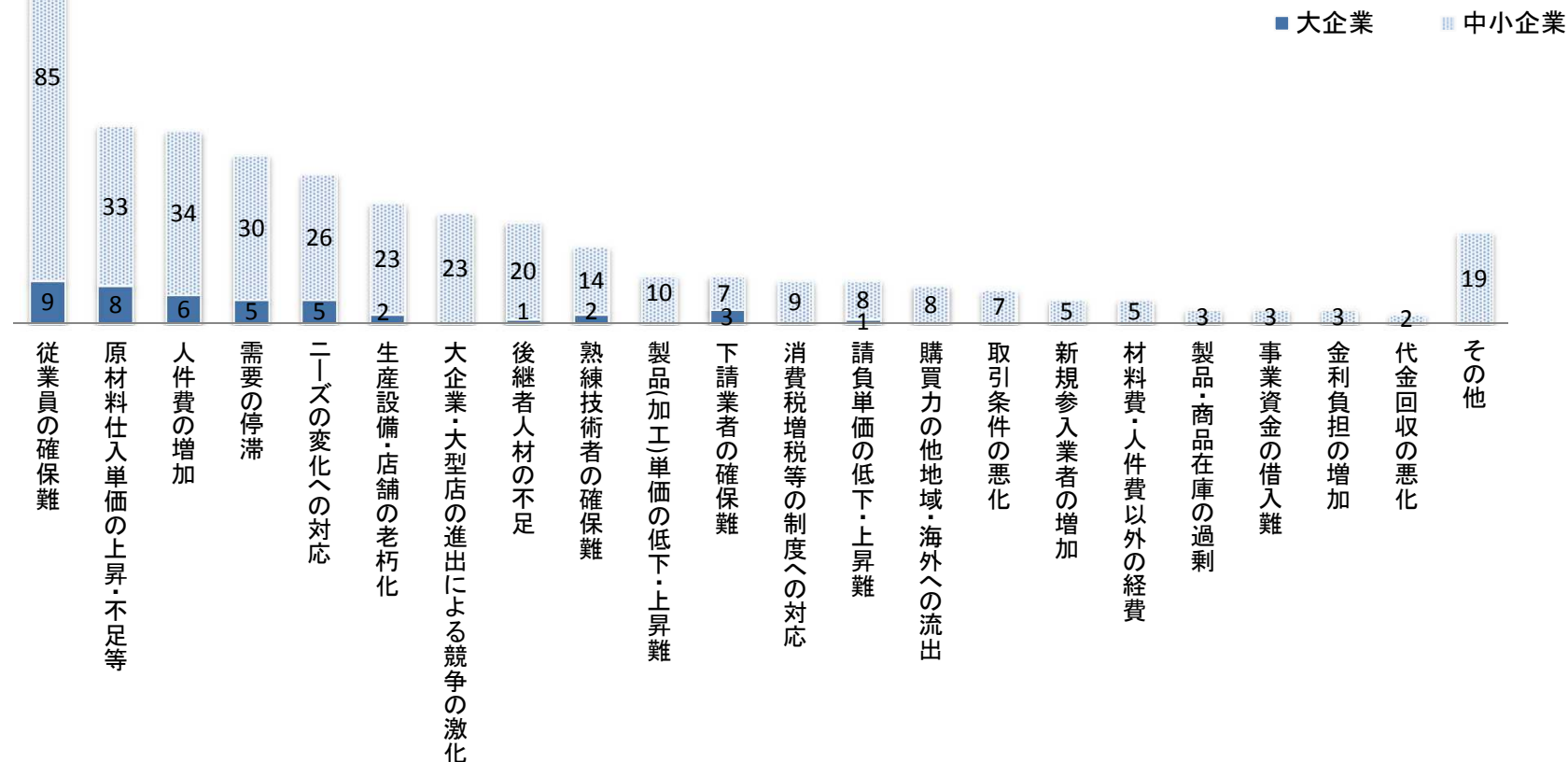


- ・製造業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・建設業の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・卸売業の業況DIは前期に比べプラスからマイナスに転じた。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・小売業の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・サービス業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅱ.経営上の問題点



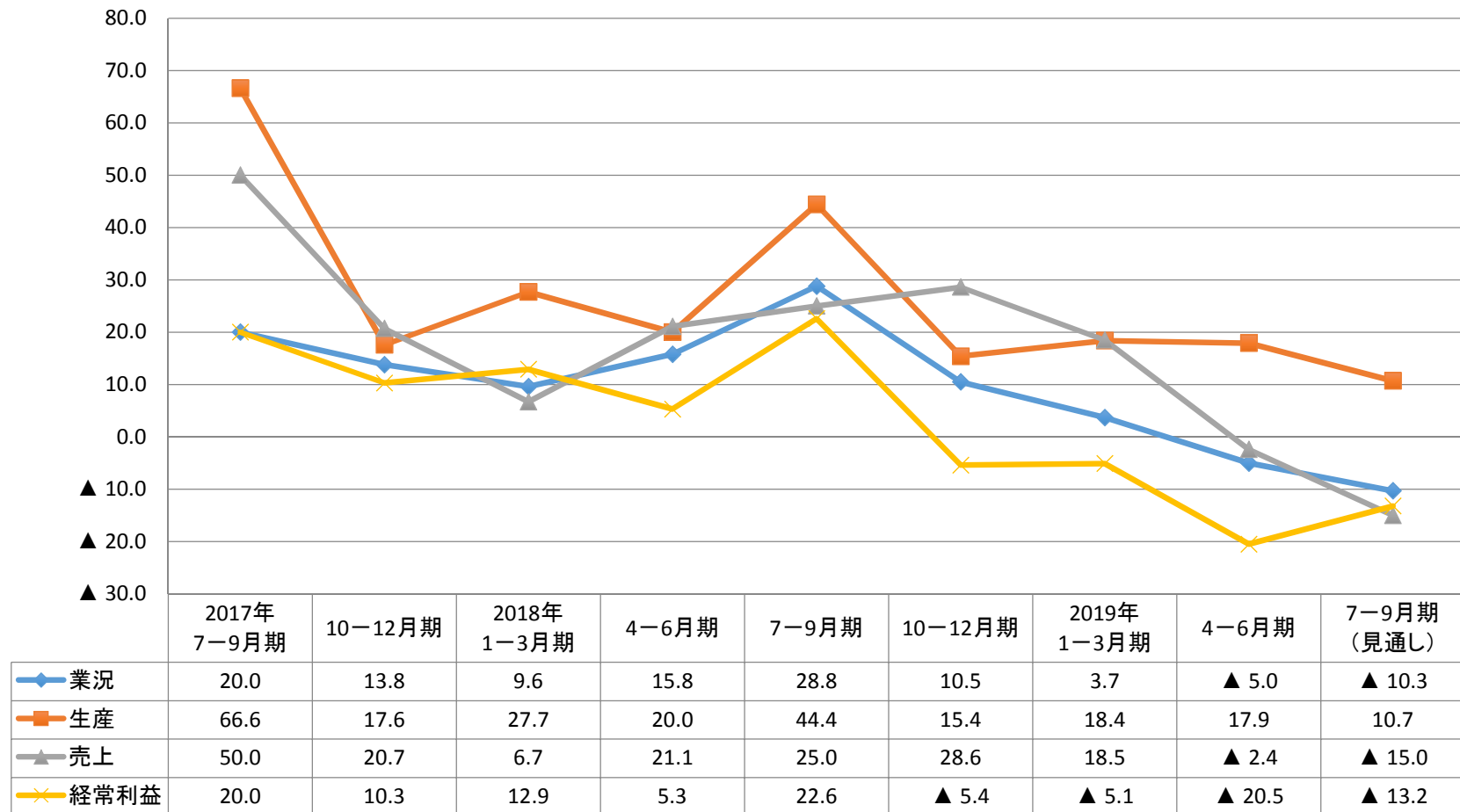
回答企業数421社
(件)



- ・全体:「従業員の確保難」が最多となっており、「原材料仕入単価の上昇・不足等」「人件費の増加」の順となっている。
- ・大企業:「従業員の確保難」が最多となっており、「原材料仕入単価の上昇・不足等」「人件費の増加」の順となっている。
- ・中小企業:「従業員の確保難」が最多となっており、「人件費の増加」「原材料仕入単価の上昇・不足等」の順となっている。

Ⅲ.【大企業】①

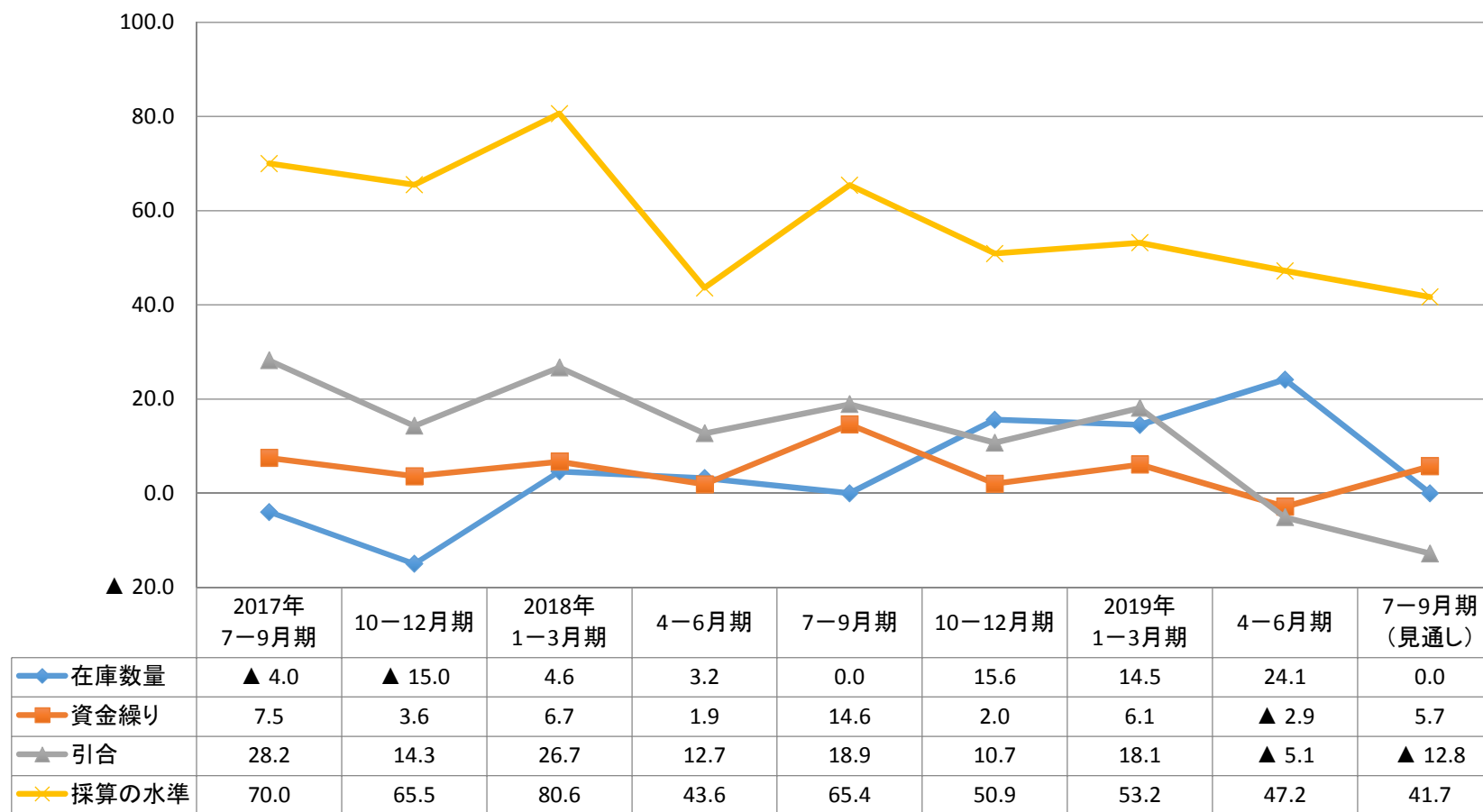
業況・生産・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲5.0と、前期に比べプラスからマイナスに転じた。来期は▲10.3と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・生産DIは17.9と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は10.7と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。
- ・売上DIは▲2.4と、前期に比べプラスからマイナスに転じた。来期は▲15.0と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲20.5と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲13.2と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【大企業】②

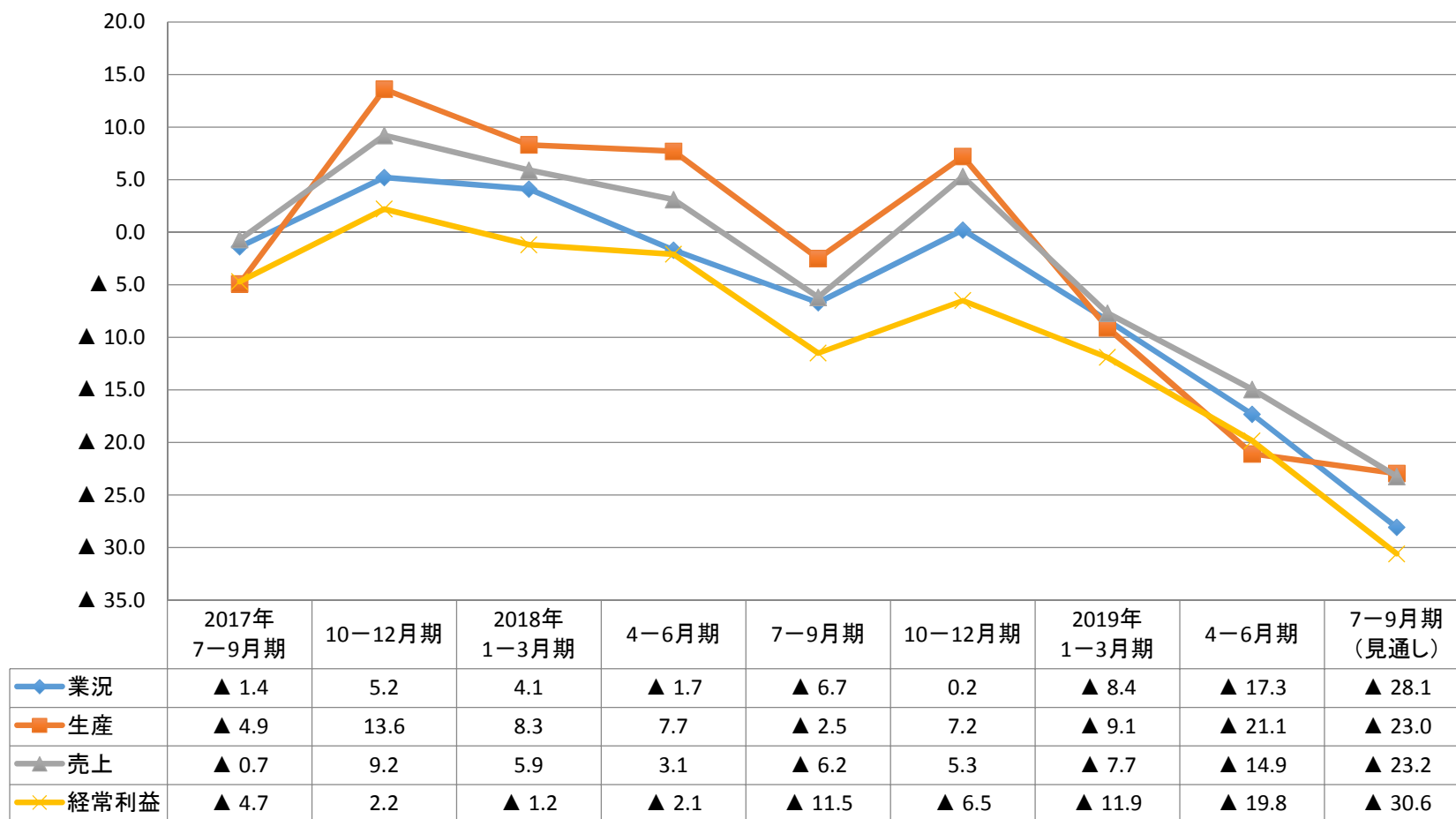
在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは24.1と、前期に比べプラス幅が拡大した。来期は0.0と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。
- ・資金繰りDIは▲2.9と、前期に比べプラスからマイナスに転じた。来期は5.7と、今期に比べマイナスからプラスに転じる見通し。
- ・引合DIは▲5.1と、前期に比べプラスからマイナスに転じた。来期は▲12.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは47.2と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は41.7と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【中小企業】①

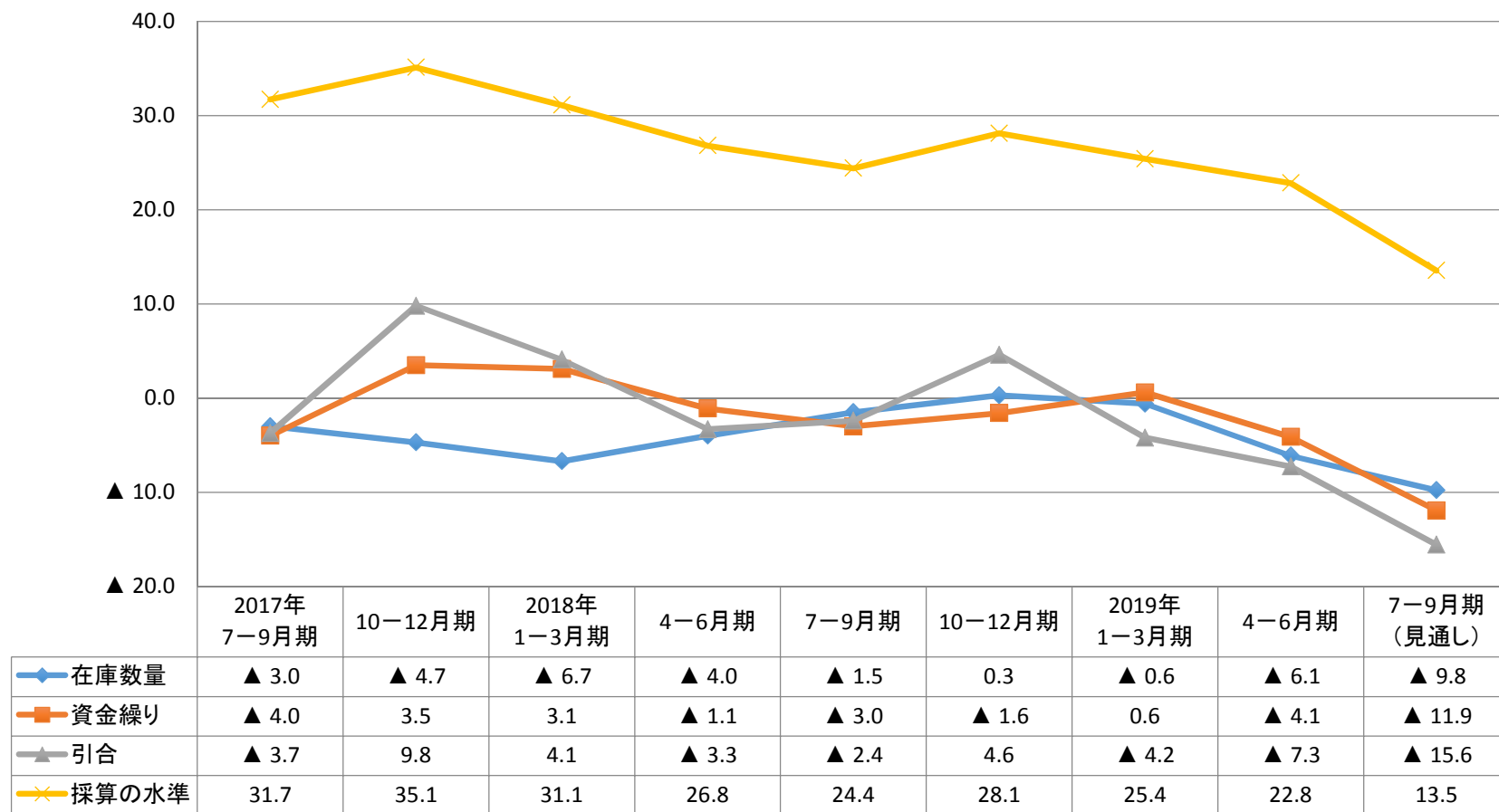
業況・生産・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲17.3と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲28.1と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・生産DIは▲21.1と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲23.0と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲14.9と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲23.2と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲19.8と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲30.6と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【中小企業】②

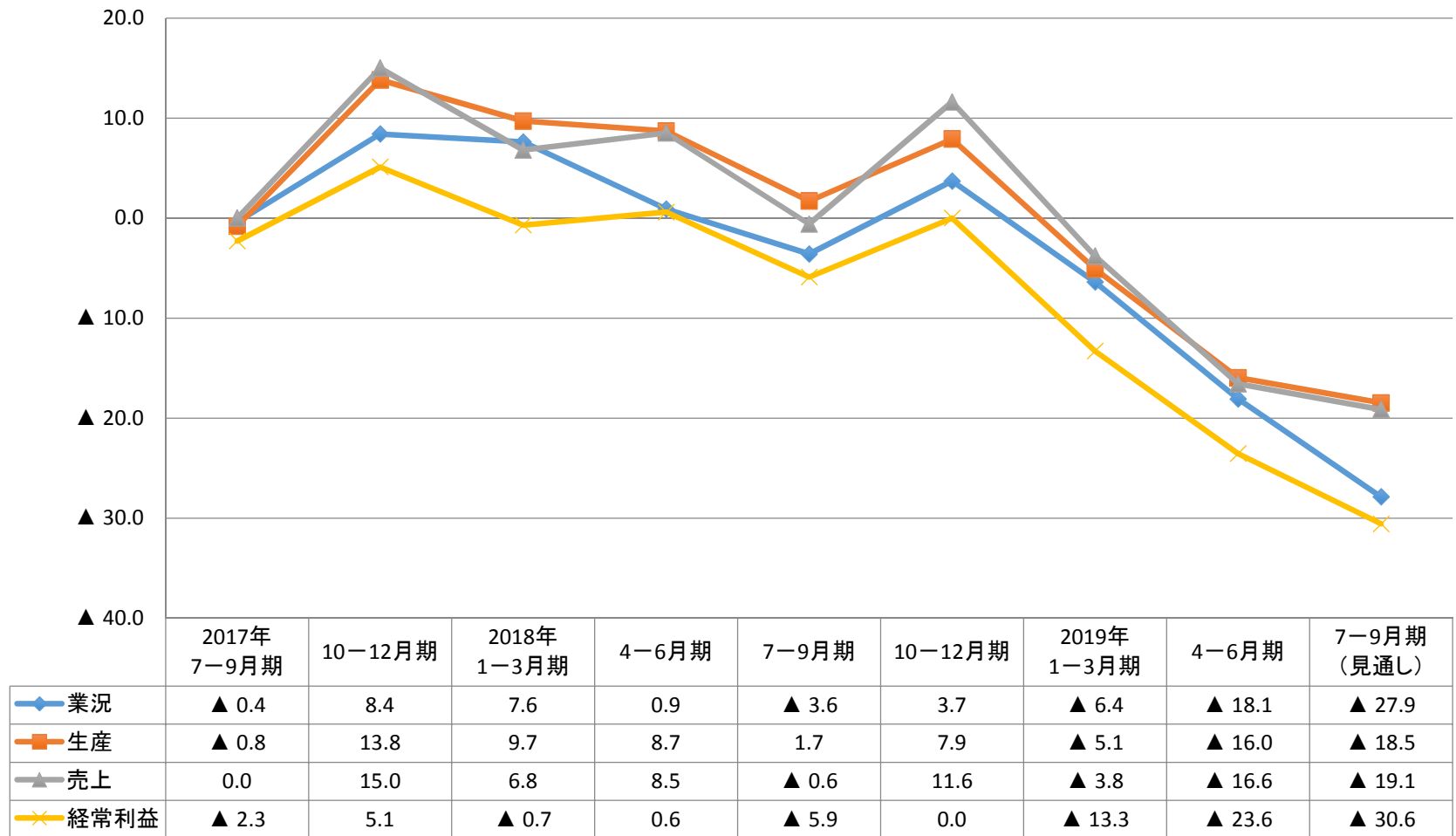
在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは▲6.1と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲9.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・資金繰りDIは▲4.1と、前期に比べプラスからマイナスに転じた。来期は▲11.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲7.3と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲15.6と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは22.8と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は13.5と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【製造業】①

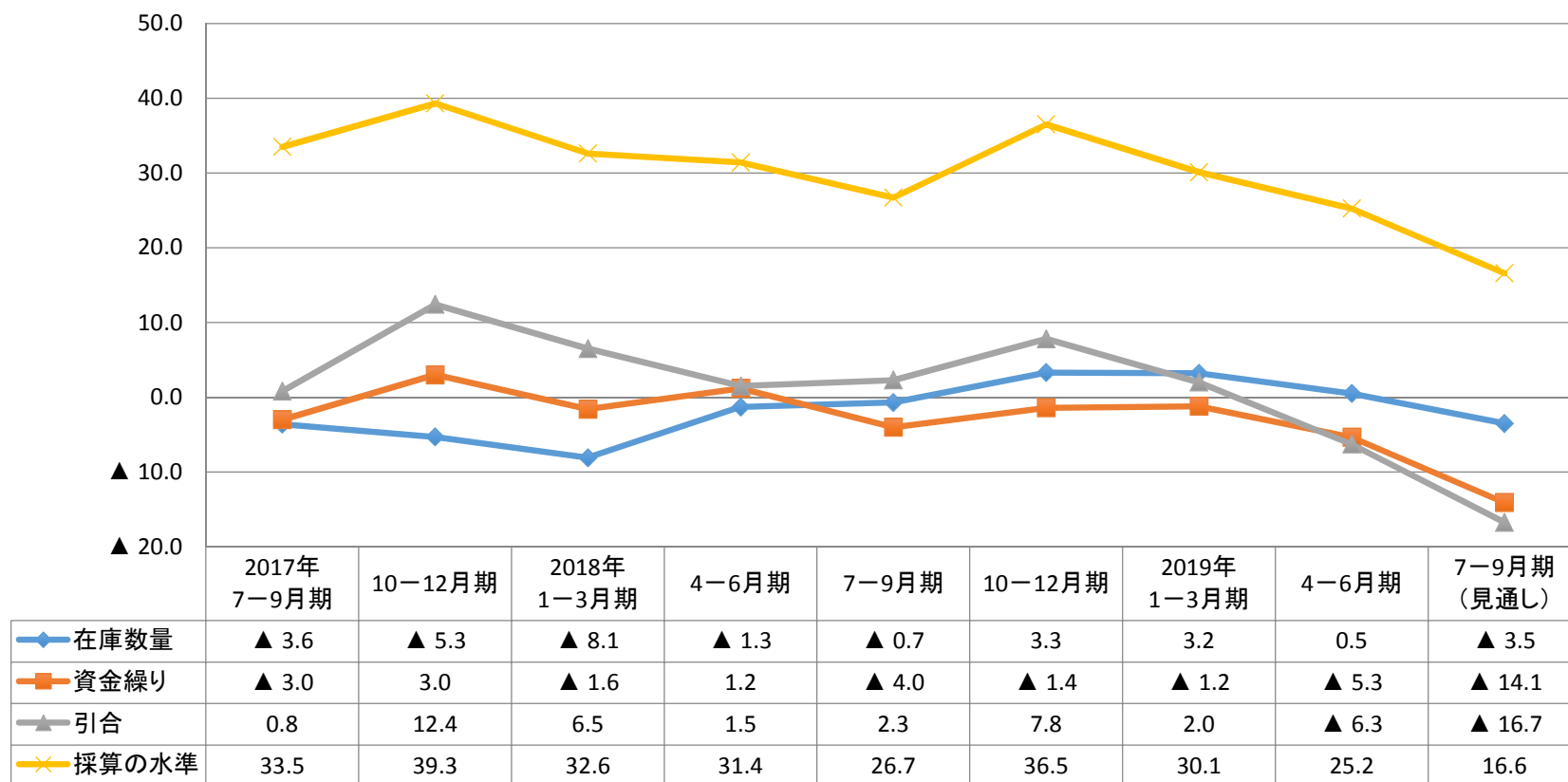
業況・生産・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲18.1と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲27.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・生産DIは▲16.0と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲18.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲16.6と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲19.1と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲23.6と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲30.6と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【製造業】②

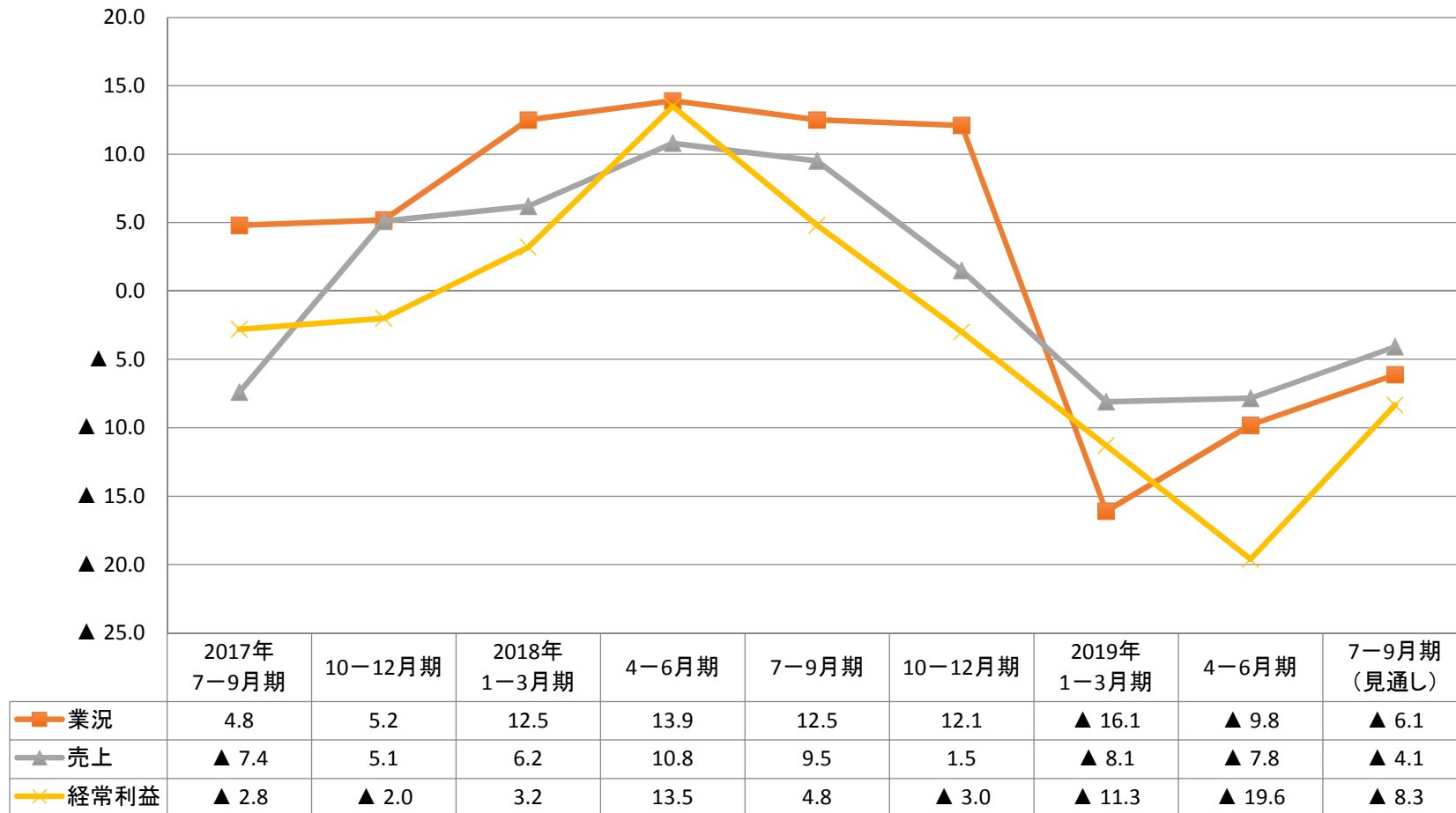
在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは0.5と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は▲3.5と、今期に比べプラスからマイナスに転じる見通し。
- ・資金繰りDIは▲5.3と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲14.1と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲6.3と、前期に比べプラスからマイナスに転じた。来期は▲16.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは25.2と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は16.6と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【建設業】①

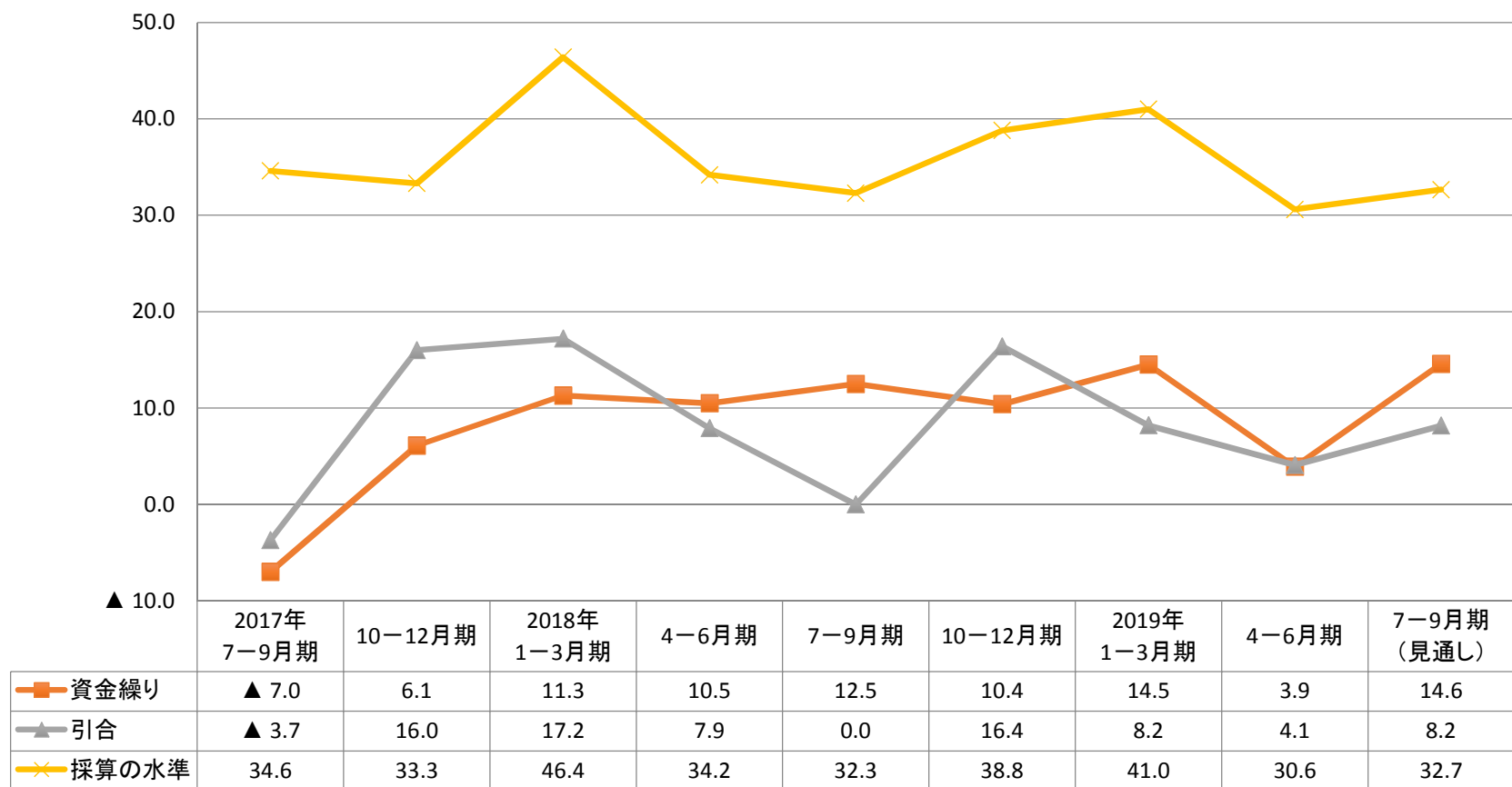
業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲9.8と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲6.1と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・売上DIは▲7.8と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲4.1と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・経常利益DIは▲19.6と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲8.3と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【建設業】②

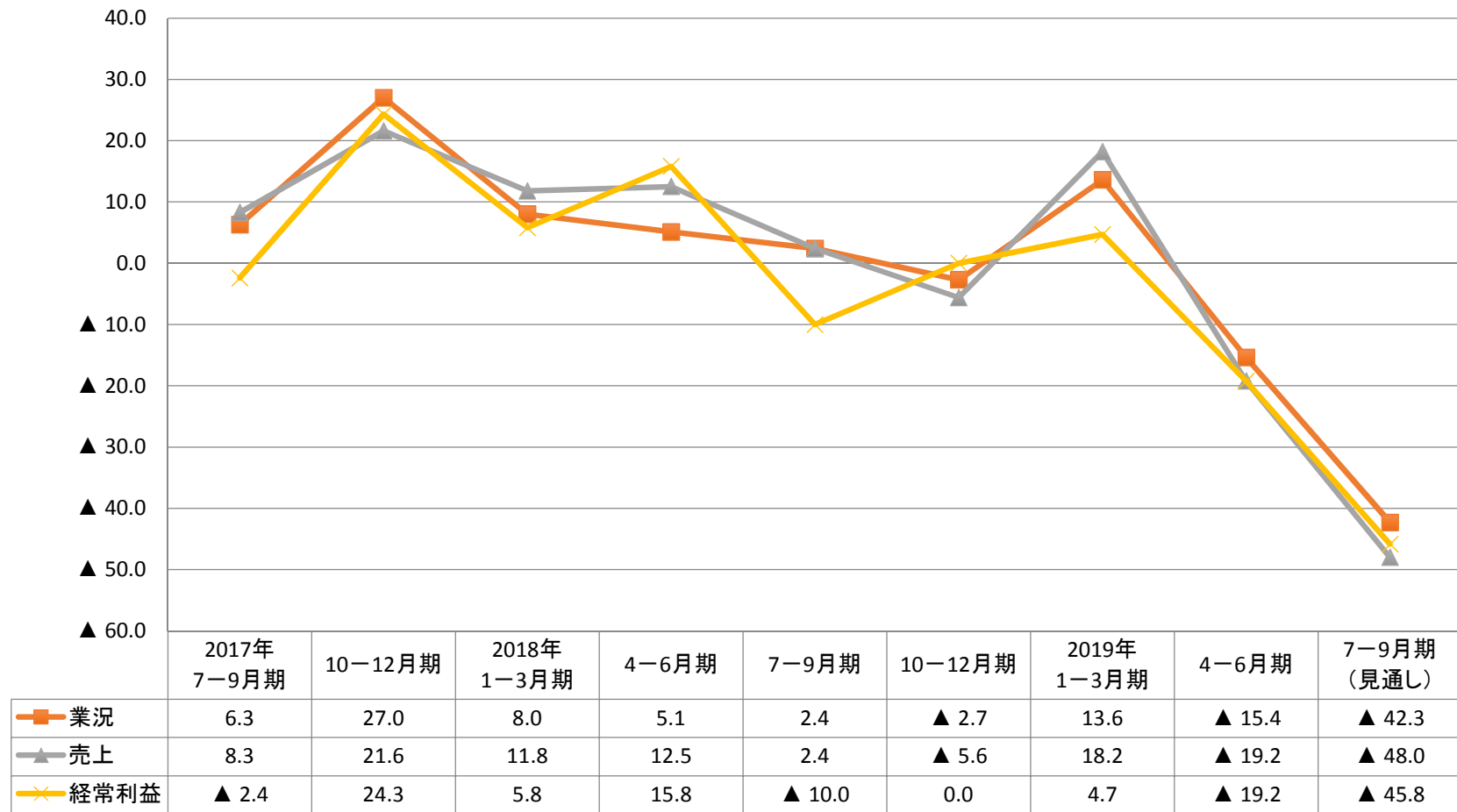
資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・資金繰りDIは3.9と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は14.6と、今期に比べプラス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは4.1と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は8.2と、今期に比べプラス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは30.6と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は32.7と、今期に比べプラス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【卸売業】①

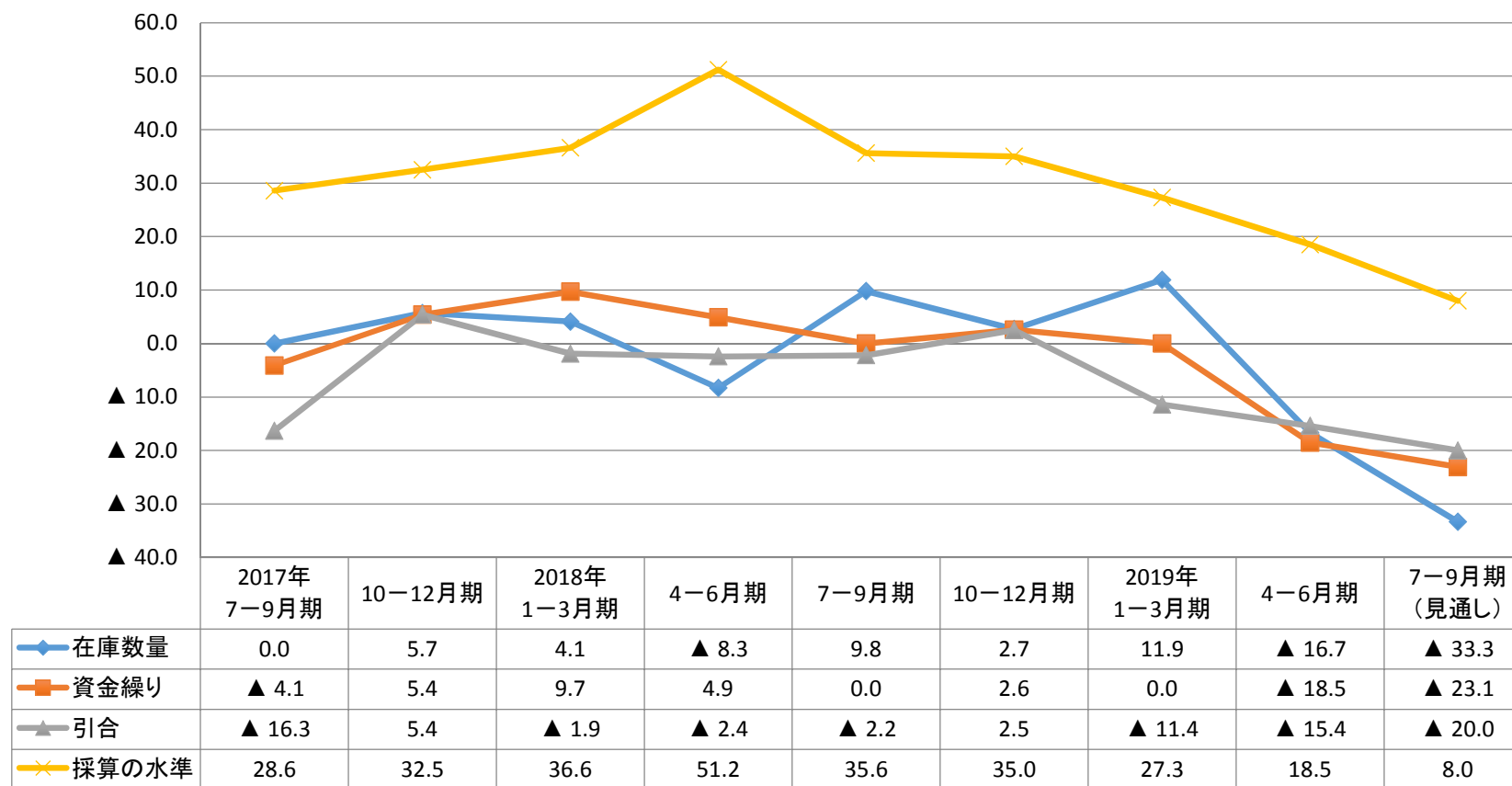
業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲15.4と、前期に比べプラスからマイナスに転じた。来期は▲42.3と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲19.2と、前期に比べプラスからマイナスに転じた。来期は▲48.0と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲19.2と、前期に比べプラスからマイナスに転じた。来期は▲45.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【卸売業】②

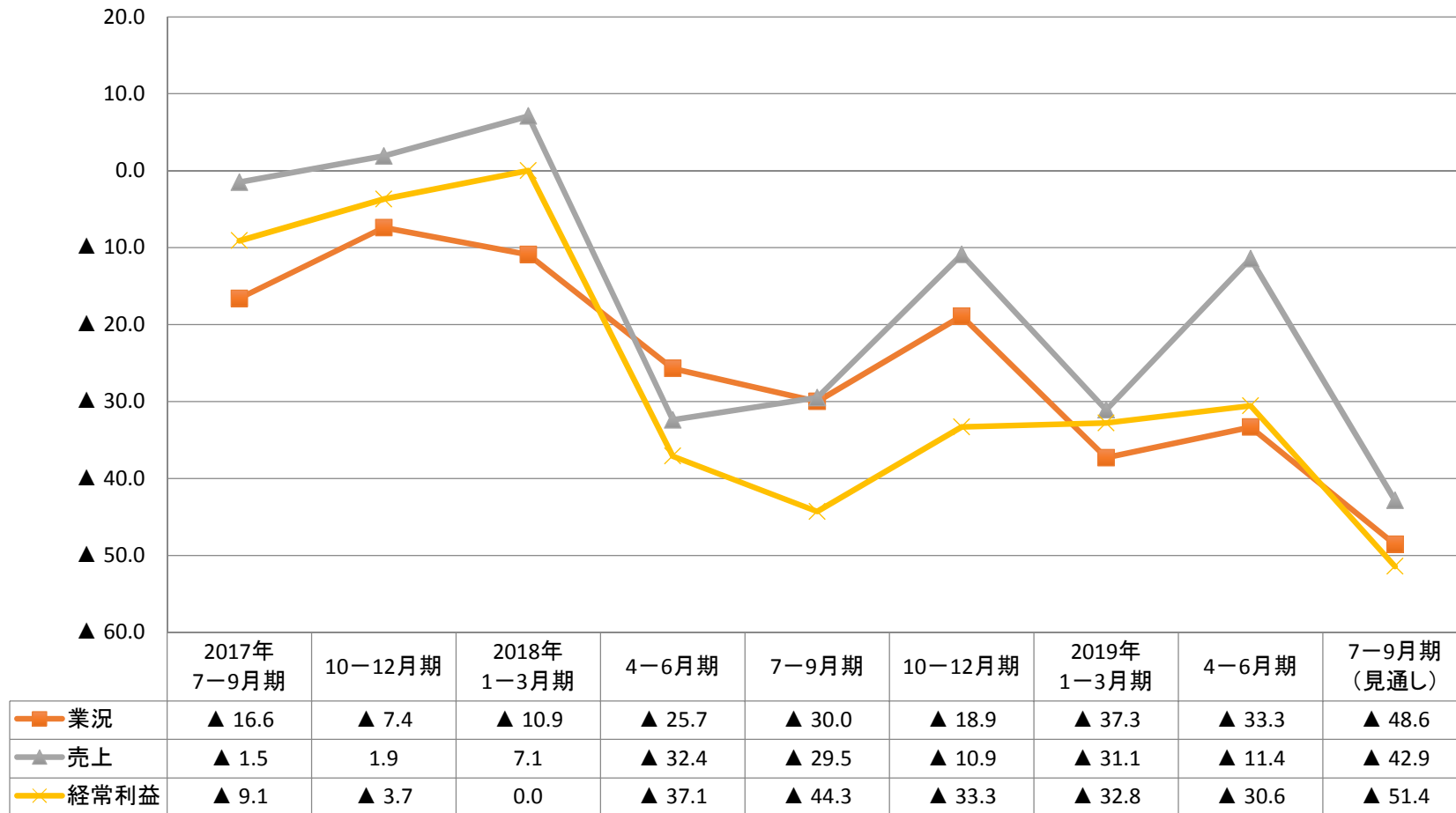
在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは▲16.7と、前期に比べプラスからマイナスに転じた。来期は▲33.3と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・資金繰りDIは▲18.5と、前期に比べプラスからマイナスに転じた。来期は▲23.1と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲15.4と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲15.4と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは18.5と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は8.0と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【小売業】①

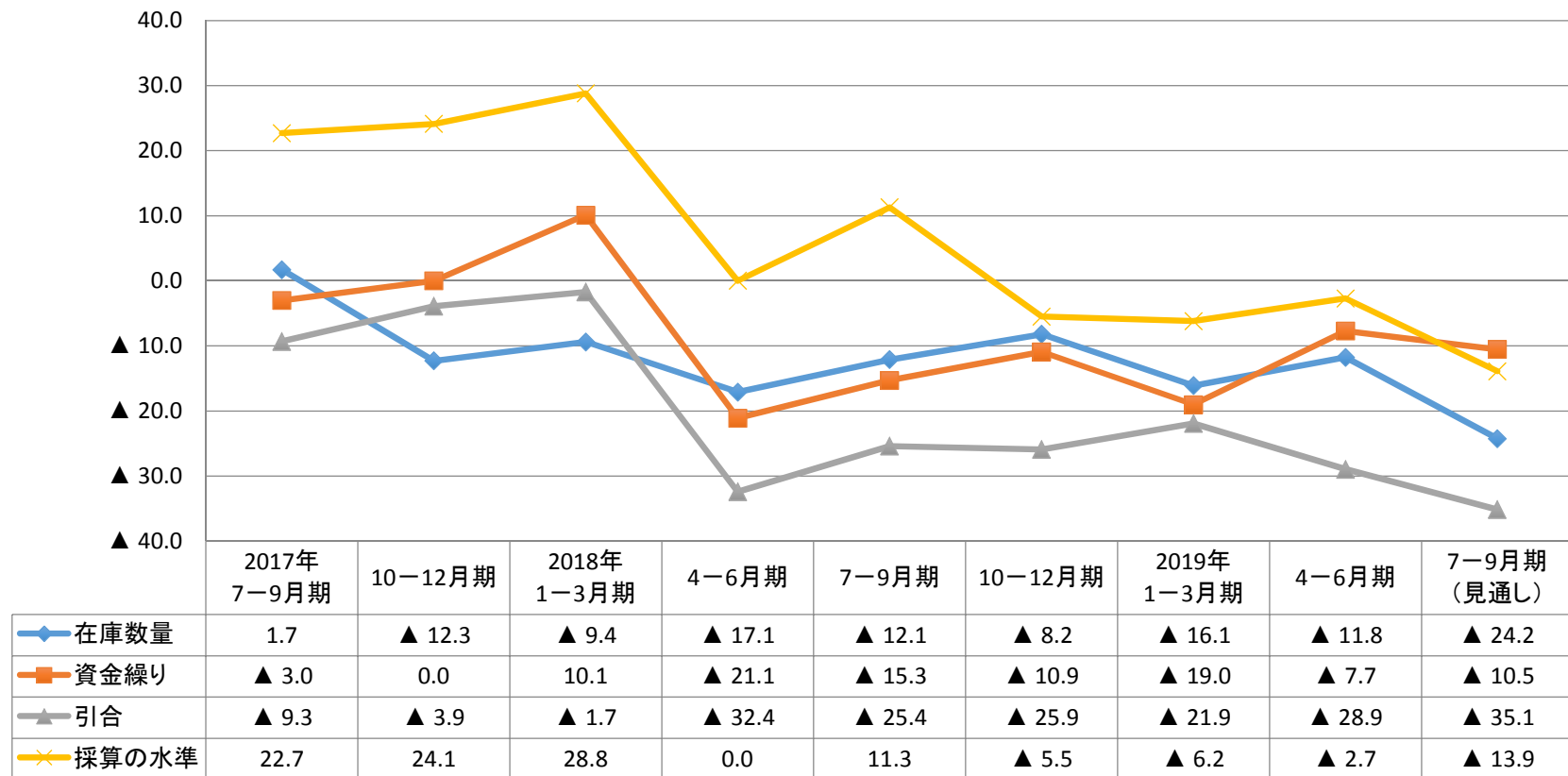
業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲33.3と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲48.6と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲11.4と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲42.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲30.6と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲51.4と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【小売業】②

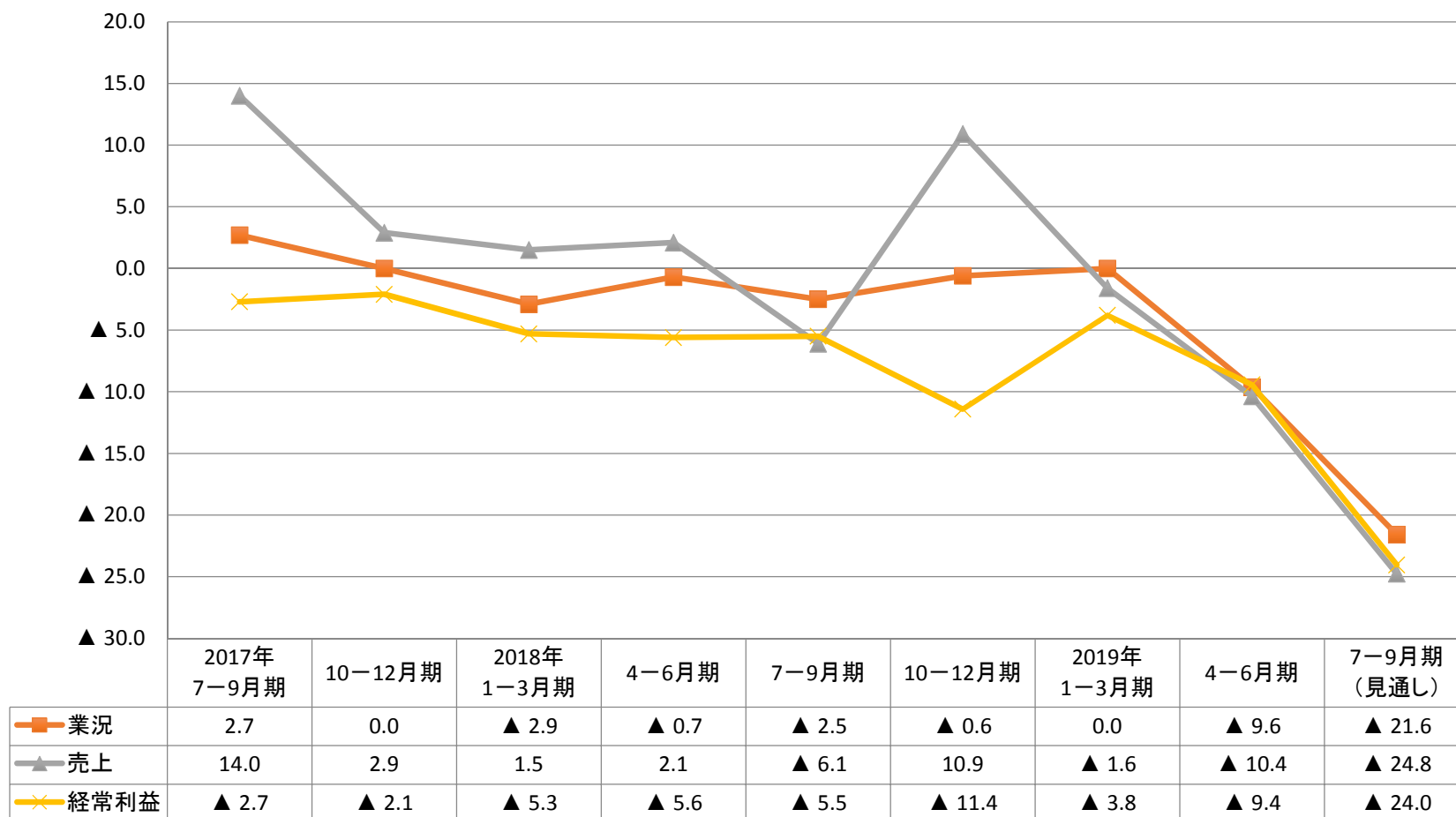
在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは▲11.8と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲24.2と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・資金繰りDIは▲7.7と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲10.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲28.9と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲35.1と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは▲2.7と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲13.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【サービス業】①

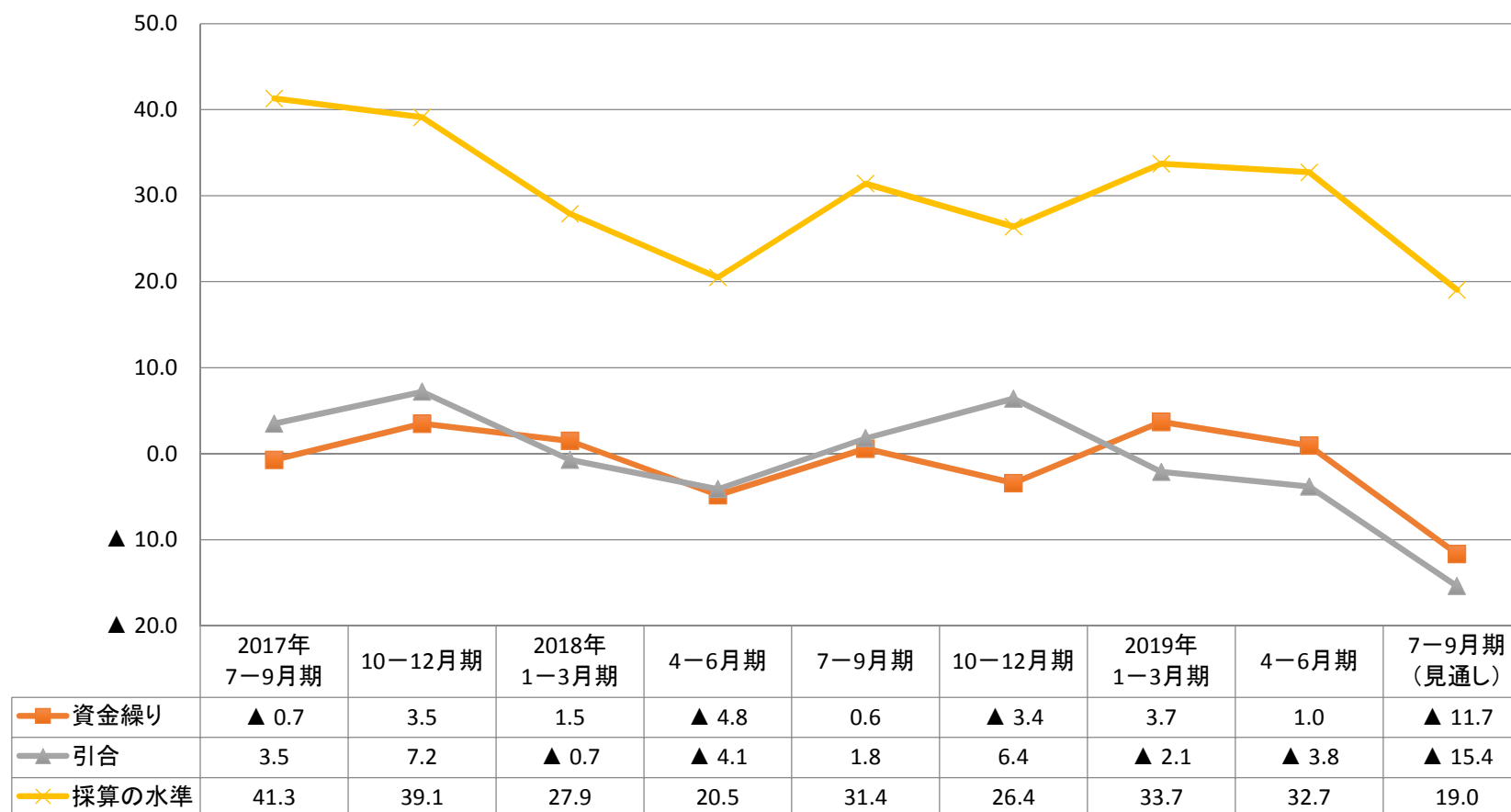
業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲9.6と、前期に比べプラスからマイナスに転じた。来期は▲21.6と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲10.4と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲24.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲9.4と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲24.0と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【サービス業】②

資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・資金繰りDIは1.0と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は▲11.7と、今期に比べプラスからマイナスに転じる見通し。
- ・引合DIは▲3.8と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲15.4と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは32.7と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は19.0と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

IV.回答企業のコメント



【プラスの判断をした企業】

- ・車載関係の受注が堅調であり、今後安定見込み。（機械器具製造業）
- ・多品種小ロット対応 新規機械を導入して生産性の向上を図り受注拡大に繋げる。（加工紙製造業）
- ・生產品目の拡大により、増加傾向にある。（出版・印刷関連業）

【マイナスの判断をした企業】

- ・建設業界の低調による受注減。（金属加工製造業）
- ・個人客の財布の紐はかたい。節約志向の客先が多い。（食料・飲料製造業）
- ・需要が減少しており、今後もしばらく続く見込み。（金属加工製造業）
- ・米中貿易摩擦を主因とする電子部品の世界市況悪化により現状は悪化傾向。来期は昨年とほぼ同様。（電気機械器具製造業）
- ・中国、アメリカ向け輸出減少の影響を受け、今後も悪化見込み。（繊維工業）
- ・ハイテンションボルトの不足で工事の遅れが出ている。後期は解消されるので好転する予定。（機械器具製造業）
- ・アメリカと中国の関税の成り行き次第で今後が読めない状況。（金属機械製造業）
- ・今年度に入って停滞、消費税増税後が懸念。（建築資材卸売業）
- ・中国景気悪化の影響で生産が減少し荷物の流通が止まっている。（貨物運送業）
- ・消費税の駆け込み需要も今のところ影響なし。来年の東京オリンピック後は住宅・建築業界は閑散期になる見込み。（建築資材製造業）
- ・採用困難による人件費の高騰。（設備整備サービス業）

【その他】

- ・人員不足で、売上が下がりそう。機械の老朽化により、修繕費等増大。（繊維工業）
- ・材料費は値上がりしたため売上也その分だけは増加するが、利益はあまり変わらない。人が不足しているため生産が追い付かない。（金属製品製造業）
- ・消費税10%UP前に取引先が生産が好調で、残業増・人員増の見込みがあり、売上増となる。（部品製造業）
- ・消費税増税までは民間も含めて設備投資は堅調に推移するものと思われる。（建設機械サービス業）
- ・人員不足にて受注出来ない。（建設工事業）
- ・5月の大型連休による稼働日数減少の影響が大きい。（包装用品製造業）
- ・原材料の値上げにより収益は悪化。顧客への価格改定が遅れている。（加工紙製造業）